

3 現行プランの改定に向けた進捗状況の総括

10年間の事業実施報告書(「多摩川は今」)をもとに100の実施事業の進捗状況の整理を行いました。

I 自然と調和した美しい多摩川へ(32事業)

桜並木の保全・復活、市民参加による植樹や美化活動が継続し、景観保全と協働が進展しています。低水護岸整備や河道掘削など国の基盤整備も進み、治水と環境配慮が両立しつつあります。一方、生産緑地の減少など、都市の緑の確保には引き続き課題が残ります。

II 多摩川を知り 災害から市民を守る(9事業)

国の整備計画に基づく護岸・築堤・掘削等により治水安全性が向上し、防災学習やハザード情報の充実により、市民の防災意識が高まっています。しかし、気候変動の激甚化を踏まえると、さらなる治水対策や危機認識の向上が必要です。

III 子どもの生きる力を育む場の創造(18事業)

博物館等による資料収集・展示やスピードウェイ跡地の保存、「渡し」の復活などの体験的学習が進み、地域の歴史・文化への理解が深まっています。また、水辺の楽校や学校・団体との環境学習も定着し、世代を超えた学びの基盤が形成されています。一方、活動の継続性や担い手不足が課題です。

IV 多摩川とともに歩むみんなの暮らし(26事業)

アクセス道路、サイクリングコース、トイレ等の整備が進み、利用環境が向上しています。市民団体との協働管理も定着し、多様な利用を支える体制が整っています。ただし、利用ルールの徹底や安全確保など、管理の質を維持するための対応が引き続き求められます。

V つながりを深めて魅力的な流域へ(15事業)

流域セミナーやシンポジウムなど官民協働の取組が広がり、情報発信の多層化により市民参加が進んでいます。清掃活動や環境学習など自主的活動も増えていますが、継続的に参画を促す仕組みづくりが今後の課題です。

●終了した事業(11事業)【終了年度】

- ① I - 2 - 5: 河川敷への植樹【R3年度植樹完了】
- ② I - 2 - 6: 御幸公園における梅香事業の展開【R7年度で計画期間終了】
- ③ I - 6 - 29: 地域の自然を再発見するツアー【多摩川をフィールドにした取組はH31年度で終了】
- ④ III - 14 - 48: ニヶ領用水総合基本計画の推進【令和7年度でニヶ領用水総合基本計画の廃止に伴い事業終了】
- ⑤ III - 15 - 51: 研究所等の施設を用いた環境セミナーの実施【多摩川をフィールドにした取組はH31年度で終了】
- ⑥ III - 15 - 52: 市民館等の地域課題の解決に向けた市民との協働による学習会・イベント等の実施【H30年度事業終了】
- ⑦ III - 15 - 57: 福田公園のさかなの家における多摩川に生息する生き物の展示【R2年度さかなの家の廃止に伴い事業終了】
- ⑧ IV - 17 - 62: 登戸駅北側交差点から多摩水道橋に至る登戸2号線の整備【R3年度整備完了】
- ⑨ IV - 18 - 66: 等々力・丸子橋地区周辺の施設の再配置・再整備【R2年度再整備完了】
- ⑩ IV - 18 - 67: 上平間・古市場地区周辺の施設の再配置・再整備【R5年度再整備完了】
- ⑪ V - 28 - 96: 市民館等の地域課題の解決に向けた市民自主企画事業等における市民との協働【H30年度事業終了】

●プランに位置づけはないが、多摩川沿いで新たに展開されてきた事業

- ・多摩川見晴らし公園・船着き場での社会実験
- ・多摩川河川敷(登戸地区)の社会実験「登戸・多摩川 カワノバ」
- ・川崎市多摩川丸子橋河川敷の社会実験
- ・多摩川沿いのシェアサイクル 等



■成果(目標の達成度)(令和7年度)

【指標】川崎市内の多摩川の年間利用者数

計画当初: 約410万人(目標: 約500万人) ⇒ 成果: 約467万人(令和7年度)
(定量的目標 + BBQ場、花火大会、マラソン大会等) **達成率93%**

定量的目標	計画当初 平成26年度 (2014)	目標	成果 令和7年度 (2025)	達成率
水辺の楽校の参加者数	3,151人	約6,000人	5,416人 ※実測値	90%
環境学習の参加者数	3,590人	約7,000人	7,426人 ※実測値	106%
多摩川の施設の利用者数※1	約280万人	約360万人	約337万人 ※推定値	93%
渡し場イベントの参加者数	約3,000人	6,000人	13,500人※2 ※実測値	225%

※1: 多摩川の施設の利用者数: ニヶ領せせらぎ館 + 大師河原水防センター + 運動施設 + サイクリングロード

※2: 当初計画に含まれていなかった新規渡し場イベントの参加者数を含む

①達成状況の確認

水辺の楽校の参加者数は計画期間にコロナ禍が重なったことによる活動の縮小や日程制約、天候の影響等で参加者が限定的となった時期もあったものの、令和7年度には増加し、達成率は90%となりました。学校と連携した環境学習の参加者数は106%と目標を達成し、多摩川の施設の利用者数は、増加したものの、達成率は93%となりました。渡し場イベントについては、天候や増水による中止リスクが高く、収支が不安定で事業者の負担が大きいことや、加えて船の搬出入や点検・保管など準備作業の手間、人員確保や安全管理の負担も重く、計画当初の二子の渡し事業の廃止などがあった一方、六郷の渡しなど新規イベントの追加により、参加者数は大幅に増加し、達成率は225%となりました。定量的目標において、一定の成果は上がっているものの、成果指標における目標人数500万人は達成していない状況です。

②現行プランの成果と進行管理における課題

現行プランは、多摩川沿川の自然環境保全や市民利用、防災、維持管理、施設整備など、多様な分野を総合的に扱う先進的な計画として一定の役割を果たしてきました。事業成果を「多摩川は今」で分かりやすく公表してきた点や、水辺の賑わいイベントを継続することで市民参加の広がりにつながりました。

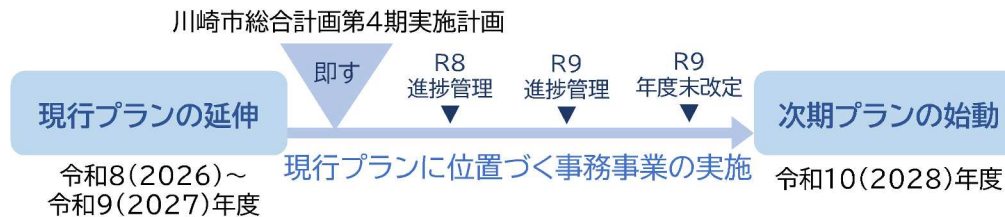
一方で、事業ごとの目標や基準が曖昧で、指標が十分に活用されておらず、民間活用や新たな利活用の拡大といった動きも捉えきれない課題があります。

次期プランでは、指標体系と施策構造を整理し、実効性の高い管理と多主体参加の仕組みを検討する必要があります。

4 改定時期の見直し

国において多摩川水系河川整備計画の変更(令和7(2025)年度)や上位計画である川崎市みどりの将来像の策定(令和7(2025)年度)を受け、令和9年度に改定を予定している川崎市緑の基本計画との整合を図りながら、改定作業を進めることが望ましいことから、その他の関連計画とも必要に応じて内容調整を行いながら、目標年次である令和7(2025)年度での改定を見送り、現行プランの期間を延伸し、令和9(2027)年度の改定を目指すこととします。

- 延伸期間中は、現行プランの方針に基づき、川崎市総合計画第4期実施計画に沿って、新多摩川プランの実施事業を推進します。
- 進捗管理はこれまでと同様に継続し、得られた達成状況を今後の検討に活用します。
- 現行プランの実施事業について、完了した事業や、社会状況の変化により継続が困難となった事業、内容の見直しが必要な事業を整理します。
- 延伸期間中は10年間で課題となった取組や要素に対して、試行・検証すると共に、構想の段階から市民意見を広く募り、次期プランへ反映します。



改定のスケジュール(予定)

令和7年度	令和8年度	令和9年度
川崎市新多摩川プランの改定		
前提条件整理	改定素案作成	意見募集 改定案作成 意見募集 改定
川崎市みどりの将来像の策定	川崎市緑の基本計画の改定 (環境審議会自然共生部会において審議中)	
川崎市総合計画(令和7年度改定)・都市計画マスタープラン・川崎市景観計画・生物多様性かわさき戦略 等関連計画		
川崎駅周辺総合整備計画等を踏まえた河川空間づくり		
国)多摩川水系河川整備計画の変更(R8年2月)		
国)多摩川河川環境管理計画の変更の動き		

関連計画との関係性

